

# 水都東京の再生 ～浅草寺と東京スカイツリーを繋ぐ隅田川沿岸の空間設計～

BR15067 兵藤宏樹  
指導教員 鈴木俊治

## 1. はじめに

### 1-1. 研究の背景

都市の魅力を活かし人を呼び込む・賑わいを生み出すためには、都市の回遊性を高めることが効果的である。そのために、拠点となる観光資源だけでなく、その周辺の地域資源を活かすことが必要である。江戸時代には、隅田川を中心とした地域は「水の都」と呼ばれ、人々が集い、賑わいある空間であった。かつての水辺空間の賑わいを取り戻すことは、都市の個性ある発展において極めて重要である。

### 1-2. 研究の目的

浅草は観光客に人気の街である。しかし、一部でしか回遊行動が起きていない。同様に墨田区には日本のシンボルとなった東京スカイツリーがあるが浅草との回遊行動は起きていない。このふたつの拠点間に回遊性が生まれれば、区をまたいだ魅力あふれる都市空間になるのではないかと。そこで、ふたつの間にある隅田川という資源を活かし、賑わいある空間にすることで、回遊性を生むことを目的とした設計提案を行う。

## 2. 対象地

### 2-1. 対象地概要

計画地は浅草寺、スカイツリーを含む一体の地域。特に隅田川両岸に焦点を当てる。隅田川は東京湾に注ぐ全長 23.5 km の一級河川であり、江戸時代には水辺空間が人々で賑わっていたという。対象地は桜の名所であり、夏には花火大会も開催されている。親水テラスが整備されており、対象地一帯がビュースポットになっており、写真を撮る人が多い。

墨田区  
面積：13.77km<sup>2</sup>  
人口：271,274 人  
(2018年10月時点)

台東区  
面積：10.11km<sup>2</sup>  
人口：198,846 人  
(2018年10月時点)



図1 対象地周辺図

### 2-2. 対象地現況

計画対象地の西側には浅草寺、東側にはスカイツリーという集客拠点がある。その距離は約 1.5 km であり、徒歩だと約 20 分と歩けない距離ではないが、歩く人・滞在する人が少ない。間には、隅田川・隅田公園があり、隅田川両岸には親水テラスが整備されている。しかし、イベント時以外は歩行者が少なく閑散としている。川幅は約 150m で対岸に渡るための橋が対象地内に2つある。その2つの橋は約 600m の距離にあり、浅草寺や墨田区役所などからアクセスが良い吾妻橋ばかり使われ、牛嶋神社などからアクセスのよい言問橋は歩行者が少ない。隅田公園からスカイツリーに至る経路も歩くことを楽しめるルートとして整備されていない。スカイツリーがまっすぐに見える道路も住宅街の中

にあり、見て楽しむものが少ない。電車・バスなどの交通機関を利用する人が多く、間は素通り状態となっている。



## 3. 問題提起

隅田川沿いの水辺空間における問題を提起する。

### ①水辺空間の利用実態

隅田川両岸の親水テラスに魅力が不足している。親水テラスは整備されているが単調な空間であり、人の通りが少ない。また、ベンチに座ったり等、留まる人が少ない。魅力不足の原因の一つとして水との距離が遠いことが挙げられる。川を眺めたり川沿いを歩くことはできるが、川に触れることはできない。より良い空間を目指すならば、できるだけ水に近づけ、水に触れることができるようにすることが必要であると考えます。

### ②テラス、公園など空間の独立

テラス、公園、川が擁壁、高速道路などによって分離されている。土地の高さによって空間が独立しており、一体の空間がバラバラになっている。関連性がなく、地域資源の活用ができていない。

### ③若者の利用状況・関心度

利用者形態年配者の方や、地方からの団体客や外国人が多い。若い人が少なく、観光客の増加を目指す二つの区は多様な人を呼び込む必要があると考える。また、東京首都圏に在住している人々の来訪を増やし、日常的に使いたくなる空間を整備する必要がある。

間の空間に上記のような問題点があり、魅力が薄れている。都心部の河川は貴重なオープンスペースであり、人々が集う賑わいある水辺空間であるべきだ。

## 4. 提案

上記の問題点を解決するために最も重要なこととして、本研究では、隅田川両岸テラスの改善に焦点を当てる。理由は、都心における貴重な水辺空間をより活かし日常的に楽しめる空間を整備することにより、観光客だけではなく住民、特に若者の関心を喚起することができる。また、親水テラスは川岸からよく見えるため、そこを魅力的な空間とすることにより、川を渡りたくなる気持ちが増進されること。隅田川両岸のテラスを魅力ある空間にすることで、テラスの利用者を増加させる。さらに対岸の魅力を魅せることで回遊性を生むことができる。



## 5. 計画概要

### 5-1. 計画方針

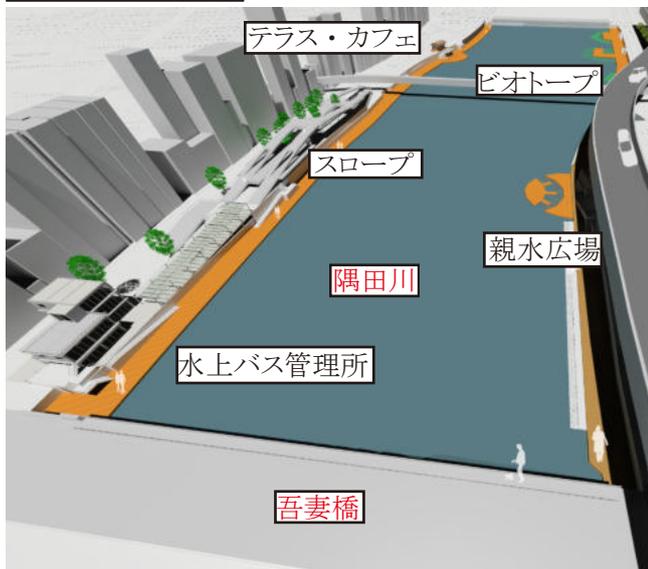
具体的な計画として、対象地内にいくつかの計画を配置し、多様な人々が滞留できるような空間を目指す。まず、単調となっている隅田川テラスに変化をつける。土地の高さに特徴があるのでそれを活かし、段差やスロープで目線の誘導を行う。また、水に触れることができるようにテラスを水面上まで広げる。また、回遊性を生むために対岸を渡ってもらえるような仕掛けを作る。具体的には、両対岸で違う表情を感じることができるようにする。浅草寺川には建築・ランドスケープに特徴を持たせることで、対岸に渡りたいという意欲を持たせる。墨田区側には親水広場を設計し、人の賑わいを見せることで対岸に渡りたいという意欲を持たせる。

### 5-2. SDGs

3 健康と福祉 11 持続可能なまちづくり 全ての人々に健康と福祉を促進させ、住み続けたいと思えるようなまちを目指す。

## 7. 全体計画

### ○全体鳥瞰パース



### ○水上バス兼コミュニティスペース兼スポーツジム

四季を問わず眺めの良い場所で汗を流すことができる。公園と川を同時に眺めることができる。管理所を改築し、年配の方々のコミュニティスペースや、眺望の良いスポーツジムなどの新たな要素を取り入れた。

### ○テラス・カフェ

既存のカフェを改築し、公園からもテラスからもアクセスしやすいようにした。また、水辺という利点を生かし水上テラスを設計した。



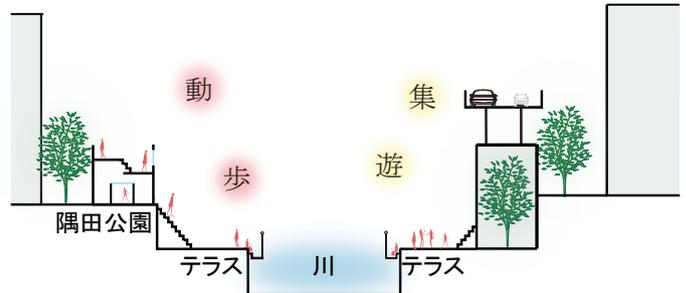
## 8. 総括

これらの提案により隅田川沿岸に魅力を創出することで、人々が集う賑わいある水都東京を再生する。そして、浅草寺・スカイツリー間に回遊行動が生まれ都市の発展へとつながる。

## 5-3. コンセプト

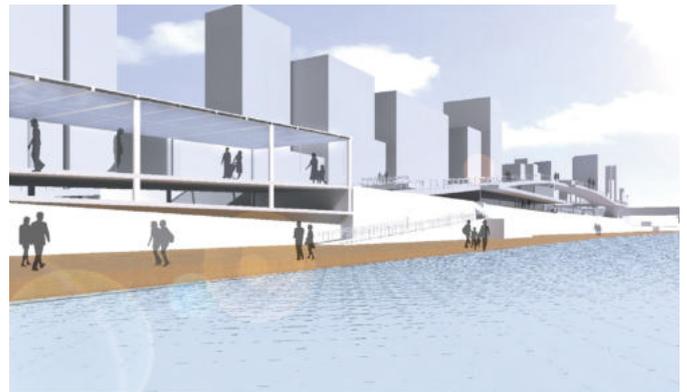
2つの表情を持つ都市空間  
～多様な人々が滞留できる拠点づくり～

2つの区の特徴を持つ隅田川。この2つの表情を感じられる都市親水空間を目指す。水・緑を活かした空間要素を配置し繋げることで、人々が快適な時間を過ごすことができる空間創出を目指す。



### ○通りたくなるスロープ建築

言問橋側へ歩く人が少なかったため、スロープと建築を一緒に歩いて見たいように設計した。レベル差を設けることで、様々な目線で川と公園を楽しむことができる。上るのがきついお年寄りのためにパワゴラで上り下りをしない道も作った。



### ○親水広場

現状では、川に触れることができないので川に触れることができるように親水広場を設計した。墨田区側は浅草寺側のテラスよりも人が少ないので、広場の賑わいを対岸から魅せることで人の誘導を行う。



### ○ビオトープ空間

滞留できる空間として、見て楽しむビオトープ空間を提案する。テラスを乗り出すことでより近づいてみる事ができる。